



環境を守ること。それはくらしを守ること。

2015 環境報告書

「コープこうべエコレポート」





生活協同組合コープこうべ
組合長理事

本田 英一

組合長理事あいさつ

コープこうべでは、組合員の皆さんとともに環境問題に長年取り組んでまいりました。テーマは時代時代で変化してきましたが、最近では地球温暖化に伴う異常気象、原発事故後のエネルギー問題、そして食や生物多様性の問題など次世代のくらしを脅かす事象が顕在化してきています。組合員とともに持続可能な社会を目指す生協として、次世代につなげる取り組みを進めていく必要があります。

本誌では、このような思いで2014年度に取り組んだ再生可能エネルギーの拡大や新たな電力事業への準備、リサイクルの新たな取り組みについて概要をご報告しています。組合員の皆さんと現在の到達点を共有し、様々なご意見やご提案もいただきながら、共に未来につなげていきたいと考えています。

2015年7月

コープこうべ概要(2015年3月31日現在)

名 称	生活協同組合コープこうべ
設 立	1921年(大正10年)
所在地	〒658-8555 神戸市東灘区住吉本町1丁目3番19号
出資金	391,5億円
組合員数	1,677,858人
組織率	50,4% (活動エリア内世帯に占める組合員世帯の割合)
活動エリア	兵庫県全域・京都市京丹後市・ 大阪府の北摂地域
主な事業	組合員世帯を対象に、商品の生産・供給事業 および教育・学習を行い、生活文化の向上を図る事業など
供給高	2,348,2億円
生産事業高	89,5億円
総職員数	9,651人
事業所	住吉事務所／1カ所 地区本部／7カ所 店舗事業／163店舗 宅配事業／25事業所 食品工場／1カ所 物流センター／8センター その他／38事業所

コープこうべ環境憲章

有史以来、私たちは自然界の恩恵を受け、自然との共生を図りながら生きてきました。しかしながら、今や私たち人間が環境に与える影響は極度に増大し、地球環境を大きく破壊しつつあります。これは人類の生存をも脅かす重大な問題です。

この地球は私たちが先祖から受け継いだものであると同時に、子孫から託されているかけがえのないものです。地球環境を守るためには、私たち一人ひとりが生活スタイルを見直すとともに、事業のあり方を変革し、行政・企業・消費者が力を合わせて環境保全型社会への転換を図っていくしかありません。

コープこうべは、くらしを守るという生活協同組合の目的にそって、環境問題解決のため全力を尽くすことを誓い、「コープこうべ環境憲章」を以下のとおり定めます。

基本理念

地球環境はすべての面で有限であり、私たち人間は其中で活動せざるをえません。コープこうべの組合員・職員の一人ひとりはそのことを認識し、限られた地球環境の中で自然と共生していくという思いを大切に持ち続けていきます。

創立以来、コープこうべは組合員のくらしを守るための運動を展開してきました。今後さらに、環境問題を"くらしのあり方、社会システムのあり方を問う意識変革の問題"と認識し、"健康・福祉・平和"を守る運動とともに、生協運動の根源的課題として、事業活動も含めて先進的な取り組みを積極的に展開していきます。

行動指針

生協は、消費者運動としての側面と同時に事業体としての側面をもっており、その両面で環境保全への取り組みを推進していきます。コープこうべは以下の方針を基本として、組合員と職員が一緒になって考え、悩み、創造し、行動するとともに、環境保全活動や環境負荷に関する情報を公開していきます。

1. くらしの見直し運動をすすめ、
環境保全型社会への転換を推進します。
2. 事業活動から発生する直接・間接の環境負荷の
低減を推進します。

- ①環境に配慮した事業体への転換を図ります。
- ②環境に配慮した商品の開発・改善を図ります。

2014年の取り組み

2014 TOPICS

再生可能エネルギー普及への貢献

石油・石炭などの化石燃料は限りがあるエネルギー資源です。これに対し、太陽光や風力、水力、バイオマス、地熱などのエネルギー源は、一度利用しても比較的短期間に再生産が可能で資源が枯渇しない「再生可能エネルギー(以下、再エネ)」です。これらは発電時にCO₂を排出せず、化石燃料に代わるクリーンなエネルギーとして期待されています。

2014年度コープこうべでは、再エネの普及に積極的に取り組みました。さらに、シンポジウムの開催や家庭での省エネ活動にも力を入れて取り組みました。

●太陽光発電所を拡大

コープこうべグループでは、再エネの普及を目的に、兵庫県と大阪府に太陽光パネルを設置し、太陽光発電を推進してきました。2014年度は新たに2カ所に太陽光パネルを設置しました。2015年3月末現在、合計7カ所で太陽光発電を実施しており、2014年度の年間発電量は約375万kWhで、これは一般家庭の年間電力消費量換算で約1,041軒分に相当します。現在、新たな太陽光パネルの設置を進めており、引き続き太陽光を利用した発電に取り組めます。

●太陽光で発電した電力をコープの店舗の電気として利用する電力供給事業を開始

コープこうべグループが発電した太陽光電力を、お店など42カ所の事業所の電気として利用する新たな取り組みを2015年度より開始しています。再エネ電力を発電だけでなく自ら利用する取り組みを通じて、再エネの普及に貢献していきます。

●自然エネルギーで豊かな日本を創ろう！ アクション(神戸シンポジウム)を開催しました。

2014年12月に自然エネルギーの普及を求める市民の声を広く社会にアピールする目的で、日本生活協同組合連合会や自然エネルギーの普及を進める諸団体と共に「自然エネルギーで豊かな日本を創ろう!アクション」を立ち上げました。このアクションでは、自然エネルギーの拡大を望む市民・消費者の声を全国各地から発信するため全国でシンポジウムを開催しました。3月30日(月)にコープこうべ生活文化センターで開催した神戸会場のシンポジウムには、110名が参加し自然エネルギーの未来について考えました。

●家庭での省エネ

2014年度も家庭の省エネをテーマに、環境省が推奨する「うちエコ診断」を学習プログラムとして取り組みました。「組合員まつり」などのイベントブースで、気軽に参加できる簡易診断を行うなど7カ所で実施しました。このほかに、講義型で学ぶ「プチエコ学習会」を、7つのコープ委員会で開催し、132名が参加しました。

また、2013年度に引き続き日本生活協同組合連合会と連携し、エネルギーの見える化機器の一つである『HEMS』(Home Energy Management System)を取り付け、省エネに関する意識の変化や省エネ効果を検証するモニター事業を行いました。HEMSデータを利用した「うちエコ診断」を実施するなど、具体的な省エネ活動に取り組みました。

稼働中の発電所数

7発電所

一般家庭1,041軒分の年間電力消費量に相当



上：コープこうべ鳴尾浜配送センター
屋上の太陽光パネル



右：太陽光で発電した
電気がお店の照明に
使われています。



自然エネルギー財団の大野輝之さんの講演



組合員まつりでの
「うちエコ診断」の様子

環境のことを考えた事業活動をすすめました。

CO₂削減・省エネ・廃棄物削減・リサイクルの取り組みで環境負荷を低減

●事業活動から発生するCO₂を着実に削減

2014年度も、店舗の改装や設備更新時に、冷蔵冷凍ケース（10店舗）・エアコンなどの空調機（7店舗）・LED照明（20店舗）など省エネ設備の導入を積極的に進めました。改装を機に設備を一新したコープ岡本ではCO₂排出量が改装前の67.5%、コープ山手では74.3%まで削減ができました。このほか、節電担当者を決めて不要な照明をこまめに消灯するなど運用面での改善を進めました。

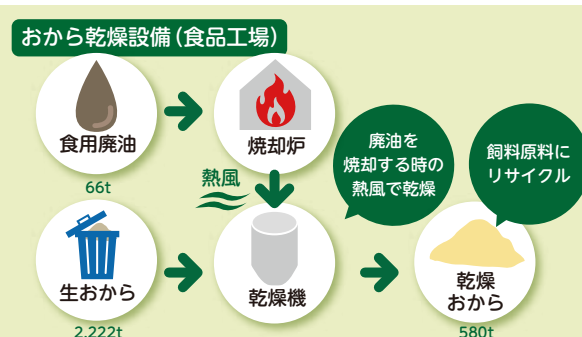
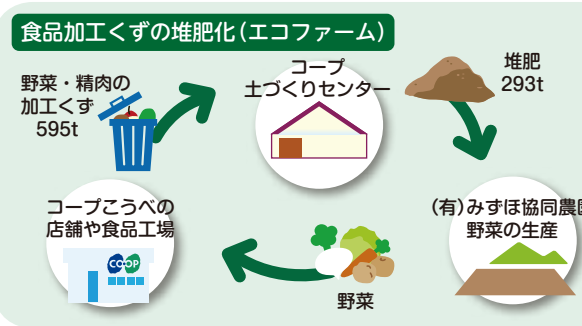
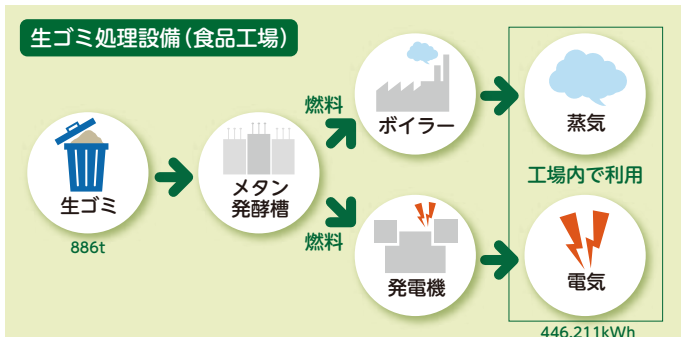
宅配部門では、トラック運転時の「ふんわりアクセル」の励行、エアコンの内気循環の励行、配達コースの効率化など燃費向上によるCO₂削減に努めました。

また、CO₂以上に温室効果が懸念されるフロンガスについて、2015年度から「フロン排出抑制法」が施行され、業務用の冷蔵冷凍ケース・空調機などフロンを使用する機器の点検や管理の強化が事業者にと求められるのに合わせ、必要に対応準備を進めました。

●店舗や食品工場での食品リサイクルの取り組みと雑がみのリサイクルを全店舗でスタート

コープこうべでは、1988年に堆肥生産施設の「コープ土づくりセンター」と農業生産法人（有）みずほ協同農園からなる環境共生型農園エコファームを設立し、食品リサイクルに取り組んできました。神戸市・三木市などの店舗から出る野菜・肉の加工くずを回収・堆肥化し、その堆肥で育てた野菜を再び店頭で供給しています。また、パンや豆腐などを製造する食品工場では、食品廃棄物をバイオマス発電に活用するなど、約99%の食品廃棄物をリサイクルしています。

2014年度からは、可燃ゴミに1～2割含まれる「雑がみ」（紙箱やポスターなど雑多な紙類）を分別回収しリサイクルする取り組みを全店舗でスタートさせました。



●店舗で7品目、宅配で4品目の容器包装を回収

店舗では組合員の協力で、紙パック、アルミ缶、スチール缶、発泡トレイ、ペットボトル、卵パック、透明トレイを回収。宅配では紙パック、卵パック、商品情報誌「めーむ」、商品配達用ポリ袋等を回収しリサイクルしています。

●ペットボトルの選別・プレス作業を行う障がい者の就労支援事業所「(株)ゆうあいサポート」を設立

2014年4月に障がい者の自立と就労支援に取り組むため、子会社の阪神友愛食品㈱と連携して就労継続支援A型事業所「(株)ゆうあいサポート」を設立しました。店舗から回収されたペットボトルは、ゆうあいサポートで選別・プレス工程を経て、透明トレイや卵パックに生まれかわります。

●商品情報誌の新しいリサイクル運用をスタート

2014年10月より回収した商品情報誌「めーむ」を子会社の(株)コープ環境サービスが圧縮機を導入し、プレスしてから紙業者に売却することにしました。圧縮することで、輸送に伴う燃料消費やCO₂排出量を削減でき、環境負荷の低減につながりました。

マイバッグ運動

「お買い物にはマイバッグ」を合い言葉に、これからもマイバッグの持参を呼びかけます。

●兵庫県下の店舗の取り組み

兵庫県内の店舗では、レジ袋1枚5円の有料化に取り組んでいます。代金は全額環境の取り組みに活用しています。

レジ袋代金を活用した2014年度の取り組み

- ①コープの森・社家郷山(しゃけごうやま)において、多様な生き物を育む豊かな森づくりのための整備活動と、山とくらしのつながりの体験学習をすすめています。
- ②エコファームや産地での体験学習を通して、食べ物の生産現場、生産する人、それを支える生産環境と、私たちのくらしとの関わりに気づく学習活動をすすめています。
- ③マイバッグ運動の普及啓発に活用しています。
- ④容器包装のリサイクルに必要な費用の一部に充当しています。

2014年度の回収量

紙パック（店舗・宅配）	365t
飲料缶（店舗）	293t
発泡トレイ（店舗）	187t
ペットボトル（店舗）	533t
透明トレイ、卵パック（店舗）	108t
卵パック（宅配）	29t
商品配達用ポリ袋など（宅配）	80t
商品情報誌「めーむ」（宅配）	5,429t



(株)ゆうあいサポートでペットボトルの選別・プレス作業を行う



子会社の(株)コープ環境サービスで「めーむ」を圧縮



●大阪府下の店舗の取り組み

大阪府下の店舗では、マイバッグをご持参の方にエコシールをお渡しし、エコシールを20枚集めると100円の割引券として活用できます。さらに環境や福祉活動に寄付することもあります。2014年度の寄付金を活用し、環境分野では、19校の小中学校にエコベンチをお届けしました。福祉分野では6か所の福祉団体に必要な備品を寄贈しました。



キーボードや音響システムをお届けしました（人形劇ザッツさん）



エコベンチ

くらしの中でできる環境の活動をすすめました。

食べものを切り口に環境を考える

コープの売り場、学習会での情報提供、生産現場の体験や漁業者との交流などを通じて、私たちのくらし方や食の選択が地域の第一次産業やその背景にある環境と密接につながっていることを学び、体感する取り組みをすすめました。



●ひょうご地魚推進プロジェクト（とれびち）

2013年度から兵庫県漁業協同組合連合会と連携し、店舗で地産地消をPRし、来店員の皆様に魚本来のおいしさ、食べ方などを伝える取り組み（とれびち）がスタート。ライフスタイルや家族構成の変化にともない、かつて日本の食卓を支えてきた魚食の減少が指摘されています。2014年度は、地元の魚を知り、それを食べ支えることが、漁業やこれを支える環境を保全することにつながるについて、全地域で学習をすすめました。農林水産省「平成26年度フードチェーン食育活動推進事業」の補助金を得て、店内での実演講習、店舗等での調理講習会、産地見学・漁業者との交流など、714件のプログラムに、のべ約57,000人の組合員が参加しました。

これにより、特に、20～40歳代の層で、店舗での魚の購入数量・金額が増加したほか、親子参加の体験学習では、食べものを通じて親子のコミュニケーションが活発化した様子がうかがえました。2015年度も引き続き学習を行い、若い層が学ぶ機会の拡大と、学んだことを地域に伝え広める活動を強めていきます。



魚売り場での調理講習



赤穂市漁協での漁師体験

●環境学習用のDVD・紙芝居を組合員が作成

2014年度の「環境活動推進の会」*は、「食と環境」のつながり、くらしの中の省エネの2つのテーマで活動。漁業体験や農業体験をふまえ、地域の食べもの、その生産現場を守り継承すること、そして省エネの必要性をより身近な課題として捉えてもらうための学習プログラムを検討。多くの人に気軽に学習してもらるように、DVDや紙芝居にまとめました。タイトルは「いかなごを知らう」「お店からキュウリが消えた」などの4本。調理講習や、イベントなどで活用します。

※1「環境活動推進の会」：活動エリア内の7つの地区から1名ずつ選ばれた組合員と理事で構成され、「学習や調査を通した意見交換をもとに、組合員が学び、伝え、つながりあう活動の手法について検討し、活動に活かす」ことを目的に活動するグループ。



作成した学習用DVD・紙芝居

生物多様性について考える

社家郷山の学習や活動にかかわった人数



●コープの森・社家郷山（しゃけごうやま）

「コープの森・社家郷山」では、多様な生きものを育む里山をめざして整備をすすめると同時に、食べものと自然のつながり、くらしの変化が環境に及ぼす影響を体験的に学んでもらう取り組みをすすめています。2014年度は1,503名が学習や活動に参加しました。



増えすぎた雑木の除伐体験



採集した生きものの絵を描き特徴など学びあいました

生産現場での体験学習

田んぼの稲は、太陽、水、土といった自然の恵みを受けて育ち、一方ではそこに生息する生きものや植物を育む役目を担っています。こうした共生関係や、日ごろ口にするお米ができるまでの過程を学んでもらうため、「コープ兵庫県産こしひかり」の産地で田植え、生きもの調査、稲刈りを体験する連続プログラムを実施しています。このほか、「マリンスクール」*1「虹の仲間で森づくり」*2など、漁業者との交流を通じて、くらしや環境を考える取り組みも継続しています。



マリンスクール



虹の仲間で森づくり

※1「マリンスクール」：神戸市漁協と明石浦漁協の協力のもとで小学生とその親を対象に魚や漁業の理解を広げるイベント。

※2「虹の仲間で森づくり」：漁業者が森を豊かにするために取り組んでいる山の整備について、広く知ってもらうための体験イベント。兵庫県漁業協同組合連合会が主催、2007年より協同組合間協同の一環で協賛。

●環境基金の取り組み

兵庫県内で自然環境の保護や活用の実践活動、ならびに実証的調査・研究を行う団体の活動資金を助成する公益信託「コープこうべ環境基金」。

2014年度は、生物多様性保全、希少種・在来種復元、食べものと環境のつながりといった視点で盛り込まれている活動を中心に、24団体に総額300万円を助成しました。

また、6月には店舗と宅配で集中募金を行い、286万円が集まりました。



須磨ふるさと生き物サポート

商品利用で産地の環境保全

●CO・OP衣料用洗剤「セフター」「おおぞら」

コープ洗剤の原料であるパーム油の産地の環境保全活動を支えるため、ご利用いただいた対象洗剤1点につき1円を「ボルネオ緑の回廊プロジェクト」に寄付する取り組みをしています。2014年度の寄付金額は450,762円（全国の生協では4,448,650円）。このプロジェクトは、東南アジアのボルネオ島でパームヤシ大規模農園の開発により分断された保護区や保存林の間の土地を確保し、生物多様性を保全する取り組みです。

●コープス「もずく」

サンゴは海の生きものに、住み家と食べ物を提供する重要な役割をもっています。コープこうべでは、ご利用いただいた「コープスもずく」各種1パックにつき1円を「沖縄恩納村サンゴの森づくり資金」に、寄付しています。2014年度は332,617円を寄付しました。現在までに植え付けたサンゴは546本となり、順調に育っています。

コープこうべのこれまでの歩み

HISTORY

1978

- 「買い物袋再利用運動」を開始
- 食品容器包装フィルムを塩ビからポリエチレンに変更

1981

- 有リン洗剤の取り扱いを中止
- せっけんキャンペーンを開始

1990

- コープの環境月間スタート
- 環境統一マーク商品の供給を開始
- 牛乳パックリサイクルが本格的にスタート

1991

- 買い物袋再利用運動から「買い物袋持参運動」に
- フードプラン第1号商品開発
- 飲料缶、トレイ、ペットボトルのリサイクル開始

1992

- 公益信託「コープこうべ環境基金」を設立

1995

- 買い物袋持参運動を拡大して「マイバッグ運動」に

1996

- 総代会特別決議として「環境憲章」を採択

1998

- コープ武庫之荘ISO14001取得
- コープ土づくりセンター(エコファーム)完成
- 尚みずほ協同農園(エコファーム)発足

1999

- 食品工場ISO14001取得
- エコファーム施設の完成

2000

- 全事業活動でISO14001取得

2001

- 第一次環境中期計画(2002~04年度)策定
- エコファームを本格稼働

2003

- 食品工場の廃棄物処理設備完成

2004

- 第二次環境中期計画(2005~07年度)策定

2005

- ISO14001の環境マネジメントシステムを食品工場と統合
- フードプラン管理規定の策定
- 食品工場のバイオマス利活用の取り組みが
兵庫県「ひょうごバイオマスecoモデル」第1号に認定

2007

- 第三次環境中期計画(2008~10年度)策定
- レジ袋代金のレジ精算、食品を扱う150店全店で実施
- 容器包装3R推進環境大臣賞最優秀賞受賞

2008

- 兵庫県、西宮市などと企業の森づくり協定締結、
「コープの森・社家郷山^{しゃけ ごうやま}」の取り組み開始

2010

- 店舗で卵パック・透明トレイの回収スタート
- 地産地消の取り組み強化「ひょうご発」商品開発
- コープ神吉が省エネのモデル店舗として移設オープン
- 省エネ運用の徹底によるエネルギー・CO₂削減の
取り組みを全事業所で展開

2011

- コープこうべ環境基金20周年のつどい開催

2012

- 夏の電力不足に対応し「夏の節電対策手順書」を作成。
15%以上の省エネ、CO₂削減を実施
- 国際協同組合年記念事業「食と環境のシンポジウム」
「虹の仲間と森づくり」開催
- 住吉事業所が関西エコオフィス大賞「節電の励行部門賞」を受賞

2013

- 鳴尾浜配送センターで太陽光発電を開始
- コープ武庫之荘が省エネ型店舗としてリニューアルオープン
- アルミ付紙パックの回収開始

2014

- 子会社の(株)ゆうあいサポートで店頭回収のペットボトルのプレス作業開始
- ISO14001の認証を返上し、自主運用に切替
- 子会社の(株)コープ環境サービスで宅配の商品情報誌「めーむ」の圧縮作業を開始

2015

- 太陽光などの再生可能エネルギー電力をコープこうべの42事業所の
電力として利用する電力供給事業を開始

コープこうべの環境への取り組みは、ホームページで詳しく紹介しています。

<http://eco.coop-kobe.net/>

コープこうべの環境活動

検索

データ集 <http://www.kobe.coop.or.jp/ecoreport/index.html>



コープこうべ

「生活協同組合コープこうべ エコレポート 2015」

編集・発行／生活協同組合コープこうべ 企画政策部 環境推進

TEL:078-856-2068 FAX:078-856-1700 <http://www.kobe.coop.or.jp/>

2015年7月発行